

米国金融政策（2023年6月FOMC）

十分な引き締め度合いを検討すべく政策金利の据え置きを決定

2023年6月15日

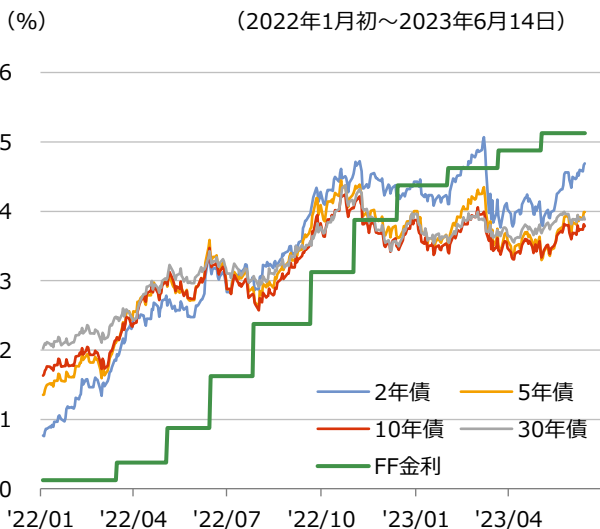
インフレ抑制のための追加利上げを示唆

FRB（米国連邦準備制度理事会）は6月13-14日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.00～5.25%で据え置くことを全会一致で決定しました。また、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小を計画通り実施していくことが再確認されました。

政策金利据え置き背景として、「追加情報が金融政策に及ぼす影響を評価するため」と声明文に記されました。一方、FOMC参加者の政策金利見通しは23年末5.625%（中央値）と前回3月の5.125%から引き上げられたほか、パウエル議長は「ほぼ全ての参加者が年内に金利をさらに幾分引き上げることが適切（と判断）」と指摘しました。コアインフレ見通しも上方修正されており、インフレ抑制に向けた追加利上げが次回7月に実施される可能性が高いと思われます。ただし、議長は利上げ到達点について「データ次第」との姿勢を繰り返しており、2回以上の利上げが必要かは今後の経済・金融情勢に左右されます。

FOMCを受けて債券市場では2年債利回りが上昇したものの、5年以降の中長期金利は低下しました。FF金利先物は7月FOMCでの0.25%ポイントの利上げを6割強織り込み、前日から若干上昇しました。利上げ休止時期を巡り、金融機関の貸出態度厳格化の効果やインフレ抑制に向けた明白な証拠が見られるかが焦点です。インフレ抑制の進捗が遅いようであれば、9月以降の利上げリスクが高まります。

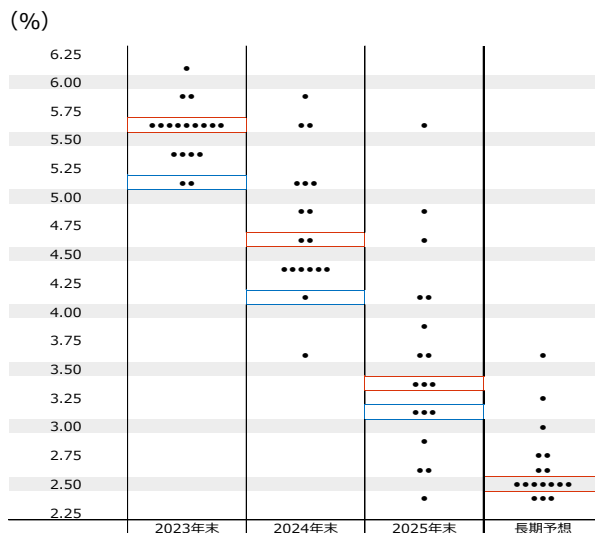
FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値

(出所) ブルームバーグ

FOMC参加者の政策金利見通し



(注) 赤枠は今回中央値、青枠は前回中央値、長期予想は前回と一致

(出所) FRB

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management